

ふゆのはらで かれくさつみ

あきやまじゅんこ 作 福音館書店 (2004年1月)



木枯らしの季節になってきました。寒いし花も終わってしまったので、もう散歩の楽しみもなくなってしまったと思いませんか？ 冬の西緑地にも楽しみはいっぱいあります。

まず、『ふゆのはらで かれくさつみ』を見てみましょう。冬枯れで何も無いと思っ

ていた野原にも、枯れた草たちや実ったタネたちが、この季節にしかない美しい風情を見せてくれているのに気づくはずです。もちろん、草たちは人間のためにこんなに美しく装っているわけではありません。タネは、こぼれたり風に乗ったり、人々のズボンのすそや動物の足について運ばれて行くように、それぞれの工夫を凝らした衣装をまとっているだけなのです。

でも、種を吹き飛ばして遊んだり、摘んできたかれくさを花束にしたり、リースを作ったりして私たちも野原の実りをたっぷり味わうことができます。

本に出ている植物の多くは、西緑地でも見られます。特に最後のページにあるトキリマメは、赤いさやに黒光りする豆を二つくっつけて、山の斜面で皆さんをお待ちしているでしょう。